



「二国間だけでなく多国間での連携も重要」

フン・マネット・カンボジア王国首相と面会



民間外交推進協会（FEC）は5月29日、国際交流会議「アジアの未来」に出席のために来日中のフン・マネット・カンボジア王国首相との面会をホテルニューオータニ東京で開催した一写真。面会には、フン・マネット首相のほか、トゥイ・リー駐日カンボジア大使等8人、FEC側からは松澤建FEC理事長、栃尾雅也FEC日アセアン文化経済委員会委員長（味の素㈱アドバイザー）、尾ノ井芳樹FEC日アセアン文化経済委員会副委員長（電源開発㈱エグゼクティブ・シニアフェロー）ら8人が出席した。



冒頭、松澤理事長が「本日はフン・マネット首相閣下とお会いできることは私共一同にとって大変光栄である。両国の交流がさらに深まることを期待してい



る」と述べた。
続いて、フン・マネット首相が「カンボジアと日本の協力関係は拡大を続けており、包括的戦略的パートナーシップの

下、更なる関係強化をしていきたい。二国間だけでなく多国間での連携も重要となってくる」と述べた。

「ともに成功し、より強くなる好循環の実現を」

グエン・チー・ズン・ベトナム社会主義共和国副首相と面会



民間外交推進協会（FEC）は5月29日、国際交流会議「アジアの未来」に出席のために来日中のグエン・チー・ズン・ベトナム社会主義共和国副首相との面会を帝国ホテル東京で開催した一写真。面会には、ズン副首相のほか、ファム・クアン・ヒエウ駐日ベトナム大使等7人、FEC側からは松澤理事長ら4人が出席した。

松澤理事長が「本年3月にFEC訪問団を貴国に派遣した際にご面会いただいたことは、団員にとって大変有意義な機



会となった。改めて感謝申し上げる」と述べた。
最後に、ズン副首相が「両国の政治関



係は非常に良好に発展しており、それにふさわしく経済・投資・貿易分野における協力も一層強化していく必要がある。

両国がともに成功し、より強くなる好循環の実現を期待したい」と述べた。



【5月13日】
ポーランド・ナショナルデー・レセプションにてパヴェウ・ミレフスキ駐日大使夫妻（右）と松澤理事長

Celebration



【5月13日】
イスラエル国独立77周年記念レセプションにてギラッド・コーヘン駐日大使（左）と松澤理事長



【5月14日】
ヨーロッパデー・レセプションにてジャン＝エリック・パケ駐日大使（右）と松澤理事長



【5月26日】
第107回ジョージア独立記念日レセプションにて松澤理事長

理事長対談シリーズ①

松澤建FEC理事長 × (株)千雅 田中千代美会長

誰もが安心して暮らせる共生の場を

高齢者向けサービスを始めたきっかけ

松澤建理事長 FEC Newsの新企画として、ユニークな活動を行っている会員を紹介する「理事長対談」シリーズを掲載することになりました。その第1弾として、首都圏および九州で高齢者向けサービスを幅広く展開している株式会社千雅の田中千代美様をお迎えしました。本日はご多忙の中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。

千雅グループは九州で事業開始、1994年に医療法人九州千雅にて公設民営のクリニックを開業以来、今年で31年目、現在、クリニックは6カ所、高齢者施設等は30カ所以上を運営されています。東京、神奈川、埼玉等の関東圏域においては、有料老人ホームの運営、サービス付き高齢者向け住宅の運営、介護福祉関連事業所等、介護保険法や障害者総合支援法等に基づく介護福祉事業を展開し、従業員数は約1000人を超え、医療・福祉分野においては中堅企業グループの一つとなっています。

まずは、高齢者向けサービスを始めたきっかけについてお聞かせください。

田中千代美会長 老人ホームを始めたきっかけは、大分で娘が通っていた学校のPTAに参加していたお母様方の声でした。彼女たちは子供を塾に通わせたいという思いで働いていましたが、同時に舅・姑の介護が必要な世代でもありました。当時は老人ホームの利用料が高額で、子供のために稼いだ給料がほとんど介護費に消えてしまうという現実、皆さんが苦しんでいらっしゃいました。

ちょうどその頃、歌人・若山牧水が逗留したことのあるホテルが解体されることになり、彼女たちの声を受けてそのホテルを買取り、「牧水苑」として高齢者に入居していただき、デイサービスの提供を始めました。

入居者やそのご家族からは非常に好評をいただきましたが、地元メディアからは「老人を古いホテルに押し込めて食い物にしている」と批判され、悪者扱いされてしまいました。それを受けて、厚生労働省の官僚と日本経済新聞の記者が視察に訪れることになりました。しかし、実際に視察が始まると評価は一転し、称賛をいただきました。当時の法律ではこのようなサービス形態は想定されておらず、視察に来た官僚の方は法整備を約束して帰られました。のちに老人福祉法で有料老人ホームの類型が確立し、住宅型有料老人ホームが法的に認められることになりました。

松澤 御社の取り組みに法律が後から追いついたということですね。

田中 法律の整備がない状況で、理想に基づいて行動しておりました。特に嬉しかったのは、入居されていた高齢者の方々が牧水苑の閉鎖に反対してくださったことです。「5～6万円という低料金で、これだけのサービスを受けられる場所は他にない」と、視察に来られた厚労省の官僚や日経記者の方に直接訴えてくださいました。それを受けて日本経済新聞では「施設の良し悪しは入居者が判断すべき」と援護射撃をしていただきました。

ユニバーサルハウス「マリアの丘」設立

松澤 創業当初は多くのご苦労があったと察します。その後、九州で事業を拡大し、首都圏にも進出されたとのことですが、ローマ法王庁から横浜の土地を取得されたと伺っております。

田中 ローマ・カトリック教会からの依頼を受け、横浜市緑区の高台にあるアトメントのフランシスコ女子修道会の施設と土地を引き受けることになりました。

高齢者福祉が国から民間へと移行したように、ハンディキャップを持つ人々への支援もまた、民間が担うべきだと考えておりました。障がい者福祉の原点はキリスト教の博愛精神にあると認識しております。カトリック教会から土地を受け継いだことは、私にとって天の啓示だと受け止めております。

こうした想いのもと、年齢・性別・障がいの有無に関わらず、誰もが安心して暮らせる共生の場として、ユニバーサルハウス「マリアの丘」を設立いたしました。背景には、知的障がいを持つお子様の親御様からの切実な声がありました。「自分たちが亡くなった後も、安心して子を託せる場所がほしい」という願いを、ずっと伺っておりました。

松澤 ローマ・カトリック教会から土地を引き受けるというのは、スケールの大きなお話ですね。ユニバーサルハウスの理念も素晴らしいですが、その実現には相当なご苦労があったのではないですか。

田中 おっしゃる通りです。運営にあたっては、大きく2つの課題がございました。1つは制度上の問題、もう1つは高齢者側の偏見でした。

制度上の課題としては、自治体ごとのローカルルールが複雑であり、支援を受けるのは簡単ではありません。支援がなければ施設として障がい者を一生預かることは現実的に困難でした。そのため、まずは老人ホームとしてスタートいたしました。その後、小泉純一郎元首相のご尽力により制度上の問題が解消され、知



田中会長（右）と松澤理事長

田中千代美 幼少の頃、祖母や高齢者との触れ合いの中で芽生えた「将来、おばあちゃんのお部屋のようにお年寄りの皆が楽しく笑顔で過ごすことのできるお家をつくる」との想いを主婦となつてから、1996年に九州で高齢者施設を立ち上げ実現。2006年、首都圏に進出し、現在は九州および首都圏に30数カ所の医療・介護施設を運営するに至る。文化福祉事業を担う関連法人を含め1000人以上の従業員を擁する千雅グループのオーナー起業家。



マリアの丘

的障がい者の受け入れが可能となりました。

もう1つの課題は、すでに入居されていた高齢者の方々の中に、障がい者に対して偏見を持たれる方がいらっしゃったことです。差別意識というよりは、「人生の終の棲家として選んだ場所に、行動や反応が読めない方が入ってくること、穏やかな生活が脅かされるのではないか」といった懸念でした。特に男性の入居者にその傾向が強かったです。

しかし、実際に入居が始まると、女性の高齢者は「可愛い子どもができた」と喜び、率先して知的障がい者と接して下さるようになりました。そうした姿を見て、偏見は杞憂であったと確信いたしました。

なお、この「マリアの丘」の理念に共感されたオノ・ヨーコ氏より、彼女の平和を愛し、人々を愛する願いを込められたアート作品「Play it by Ttrust」を提供していただきました。



オノ・ヨーコのアート作品

どの時代でも、新しい分野を切り開く人は、多くの困難な道を歩まざるを得ないものです。

ユニバーサルハウス「マリアの丘」も、民間による高齢者や障がい者のための終身ケア付き住宅として開設されると聞いています。

これから「マリアの丘」が歩む道は決して平坦な道ではありません。

私は、道なき道を歩む同志として、誰もが等しく素晴らしいときをすごせるように願いを込めて、制作したこの作品を、ユニバーサルハウス「マリアの丘」に贈ります。

“Play it by Ttrust”「信頼して駒を進めよ」

白一色のチェス盤に向かい合って白く塗られた駒を動かす。しばらくすると、どちらかが相手のコマで、どちらが味方のコマか区別がつかなくなる。その先は、「信頼に基づいて……」敵味方の区別や差別の無い平和な世界への願いが込められています。

オノ・ヨーコ

東京

センコーグループ

TOKYO EAST SIDE HOTEL KAIE

東京イーストサイド ホテル権会 TEL.03-3699-1403
東京都江東区潮見 2-8-11 <https://www.hotelkaie.jp>

豊洲

潮見

JR 京葉線潮見駅 東口前

東京駅から7分。舞浜へは9分。
観光地へのアクセス便利な好立地！

ホームセキュリティは

ALSOK

Always Security OK

新潟総合警備保障株式会社 <https://www.ngtalsok.co.jp/>
サンキュー ツヨイミカタ

0120-39-2413 (年中無休 24時間受付)

「漫画」世界に誇るべき現代日本文化の象徴 田中会長

大分・中津城の取得

松澤 現在、千雅グループは従業員数が1000人を超える中堅医療・福祉グループとして、さまざまなユニークな取り組みを展開されていると伺っております。中でも、大分県の中津城を所有されているとのことですが、その意図と今後の展望についてお聞かせいただけますか。

田中 千雅グループ設立以来、「世界に誇るべき日本の伝統・歴史・文化を尊重し、多くの満ち足りた人生を生み出し、新たな歴史と文化を創造していく」という理念を掲げております。この理念のもと、医療・介護に加えて「文化福祉」を主要事業の一つと位置付けております。その一環として、平成22年に黒田如水が築城し、徳川御連枝である奥平家の居城でもあった中津城を取得いたしました。修復・整備を施したうえで、伝統的な武家文化の象徴である城郭を広く国内外に伝える活動を展開しております。

松澤 最初にお話を伺ったときは、医

療・介護を手がける企業がなぜ城を購入されたのか不思議に思いましたが、理念をお聞きして納得いたしました。

田中 ありがとうございます。今年は、イギリスのエリザベス女王から「緑の魔術師」と称された世界的庭園デザイナー・石原和幸氏のプロデュースにより、中津城内に庭園を造営いたしました。武家文化とガーデニングを融合させた新たな城郭文化を世界に発信していく所存です。



大分県にある中津城

大阪・関西万博における「万博漫画展」の成功

松澤 本件については別記事でも取り上げておりますが、去る5月9日に「万博漫画展」のオープニングセレモニーが開催されました。パケ駐日EU大使をお迎えし、テープカットを行い、大変盛況でございました。この企画を実現された経緯についてお聞かせいただけますか。

田中 まずは、理事長に「万博漫画展」実行委員長をお引き受けいただき、さらにパケ駐日EU大使をご招待いただいたことに深く感謝申し上げます。

きっかけは、参加予定だった国の撤退により空きが出たパビリオン「コモンズE館」を、経済産業省から「共創と対話をテーマにした展示空間」として活用してほしいと依頼されたことでした。

松澤 田中会長が多くの漫画の版權を所有されていたことが、開催を可能にしたと伺っております。どのような経緯で

版權を取得されたのでしょうか。

田中 もともと、娘が漫画家を志していたこともあり、漫画の版權を取得するようになりました。漫画は、世界中の人々が日本を象徴する文化として挙げる存在であると認識しております。

国際交流の取り組みとFECに期待すること

松澤 最後に、FECに入会された理由と、御社グループにおける国際交流の取り組み、さらに当協会へのご期待についてお聞かせください。

田中 FECの「民間レベルでの経済・文化・人的交流を通じて相互理解と信頼関係を築き、世界の平和と繁栄に寄与する」という理念に賛同し、会員となりました。

少子高齢化が進む日本において、介護



松澤 こちらも非常にスケールの大きなお話ですね。今回の漫画展について、もう少し詳しくお聞かせください。

田中 関係各所のご尽力により、「EXPO2025 大阪・関西万博」において、世界各国が集い文化交流を進めるなか、「漫画」をテーマにしたブースを出展することができました。連日多くの来場者が列をなし、漫画が現代日本文化の象徴として世界に誇るべきものであると実感しております。

特に好評を得た理由は、テーマに「侍と姫」を据えた点にあると考えております。『武士道』と『姫』は、日本文化の美意識と精神性を象徴するものであり、世界から尊敬されております。

著名な漫画家の皆様が、その感性と画力を駆使して日本の歴史と伝統を表現してくださいました。漫画という表現媒体を通じて、日本古来の文化と現代芸術が融合し、訪日外国人はもちろん、日本人にとっても深い感動を呼んでいると感じております。



松澤 私は漫画に詳しくありませんが、展示作品を拝見して日本文化の本質がしっかりと伝わってきました。これだけ多くの作品を集められた背景には、相当なご苦労があったのではないのでしょうか。

田中 漫画家の里中満智子先生と知己を得たことが大きかったです。先生は日本漫画家協会の理事長でもあり、当初は協会の力をお借りするつもりでしたが、最近では協会に所属していない作家も多いと聞きました。そのため、まずは先生に出展をお願いし、そこから「友呼び」で多くの漫画家の方々にご参加いただくことができました。

今回の展示を通して、漫画が持つ表現力と創造性を世界に発信し、日本文化への理解と共感がより一層深まることを願っております。また、漫画ブースの設営・運営において、理事長が会長を務められている全国警察官友の会には、警備面で多大なご支援をいただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

や「おもてなし」の精神を活かし、活躍してくれることこそ、真の意味での人的交流であると考えております。FECには、長年の活動で培ったネットワークと情報に大きな魅力を感じております。今回の漫画展でパケ駐日EU大使をお招きできたのも、FECのおかげであると、改めて感謝申し上げます。

松澤 本日は実り多い対談となりました。今後の御社グループのさらなる発展と、当協会での活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本の漫画文化の奥深さ 世界に発信 「万博漫画展」オープニングセレモニー

5月9日、大阪・夢洲で開催中の大阪・関西万博において、「万博漫画展」のオープニングセレモニーがコモンズ・E館で行われ、万博漫画展実行委員会の実行委員長を務める松澤理事長は開幕を記念して挨拶に立ち、「日本の漫画文化の奥深さを世界に発信する機会にしたい」と述べた。

式典には、EUナショナルデー関連行事で多忙を極める中、ジャン＝エリック・パケ駐日EU大使も来場し、松澤理事長とともにテープカットを行い、会場に詰めかけた来場者から拍手が送られた。

「万博漫画展」は、日本が世界に誇る文化である「漫画」を通じて、日本の精神性や美意識を世界へ発信することを目的に企画された。会場には、昭和から令和にかけて活躍する30人以上の漫画家による描き下ろし作品や、作家自身が選んだ名場面の原画などが展示されている。



展示作品の数々

テーマは「武士道」と「姫」。時代を超えて受け継がれてきた日本の価値観を、漫画という表現で鮮やかに描き出している。さらに、会場には著名漫画家たちの直筆サインが集まる「コラボウォール」も設置されており、会期中には追加のサインも予定されている。

また、展示スペースでは、徳川家康が着用していたとされる「熊毛植黒糸威具足」や黒田官兵衛の「如水の赤合子」の兜（レプリカ）も紹介されている。来場



者は実際に試着することができ、日本の歴史文化にも触れられる内容となっている。「万博漫画展」は10月13日まで開催



テープカットを行うジャン＝エリック・パケ駐日EU大使（左）と松澤理事長



予定である。
(漫画展の開催経緯については別記事、理事長対談シリーズ①もご参照ください)

「トランプ政権はなぜ関税を課すのか」

「製造業を守る」自国再建へ強い意志

FECは5月15日、杉田弘毅共同通信社客員論説委員（明治大学特任教授）を迎え、「トランプ政権はなぜ関税を課すのか」をテーマに第290回国際研究会を国際文化会館にて開催した。松澤建FEC理事長の開会挨拶の後、杉田氏が講演を行い、最後に質疑応答が行われた。

【現在進行形で進む米中関税合戦】

米中関係について、まず驚いたのは関税の高さである。米国が中国に145%、中国がアメリカに125%という超高関税を課していた。靴やTシャツ、人形などの価格が2.5倍になるという事態である。これは互いに引かないチキンレースで、どちらが先に折れるかの勝負だったわけだが、結局は両者ともに引かず、経済に大きなダメージが出始めたことで、90日間の休戦に至った。注目すべきは、米国が中国と交渉を急速に進めていた点である。米国にとって日本は重要な同盟国でありながら、米中の方が先に具体的な進展を見せた。日本政府としては、特別待遇を期待していた面もあったが、現実とは違っていたのである。加えて、米国は英国とも合意を進めたが、そこにも「通商拡

第290回国際研究会

杉田弘毅共同通信社客員論説委員



大法232条」という国家安全保障を理由にした関税制度が盛り込まれており、これは中国製部品の排除を意図している。英国はこれに応じたが、日本には適用が難しく、日米交渉にとって重たい材料である。

【トランプ氏が関税を好む理由】

なぜトランプ大統領は関税にこだわるのか。彼の中には「米国を作り直したい」という強烈的な意志がある。これまで80年間、米国は西側のリーダーとして、あるいは世界の警察官として巨大なコストを払い続けてきた。トランプ氏の発想では、もう世界のために我慢する時代は終わったので、自国の利益を最優先にすべきという考えである。関税はその象徴であり、国内の製



造業を守る手段でもある。

【トランプ政権内で政策を動かしている40代の若手達】

関税政策の立案や実行の主導権を握っているのは40代の若手官僚たちである。米国では40代でも大統領になる国なので不思議ではないが、彼らは本気で「今の米国は危機にある」と考えている。産業が空洞化し、製造業が衰退しているこの現状を、関税という強硬手段を手始めに変えようとしている。

【日米交渉における日本のカード】

実際に米国政府関係者から耳にしたのは次の4点である。①米国への直接投資②防衛協力（実質的には武器の購入）③アラスカ産LNGの購入④造船技術の提供―。これらは確かにトラン

プ大統領が喜びそうな提案であるが、日本側にとっては果たして国益に叶うのかという疑問も残る。

最後に触れたいのが、アルバート・ハーシュマンという経済学者の本にあった「貿易は血を流さない侵略である」という言葉である。第一次・第二次大戦前、ドイツが欧州諸国に安価な機械を大量に輸出し、経済的な依存状態を作ってから値を上げ、やがて国家全体を掌握していった歴史がある。トランプ大統領の関税戦略にもどこかその構図を感じる。つまり、荒っぽいやり方で「主従関係」を作ろうとしているのではないか。そこに我々日本がどう向き合うのか、まずは精神的な自立が必要であると強く感じる。

「シンガポール・ビジネスフォーラム」

来年の外交樹立60周年に向け新分野促進



FECは5月19日、オン・エンチュアン駐日シンガポール共和国大使のご厚意により、第94回アセアン研究会（ビジネスフォーラム）をシンガポール大使館にて開催した。柄尾雅也FEC日アセアン文化経済委員会委員長（味の素㈱アドバイザー）の委員会代表挨拶の後、オン・エンチュアン駐日シンガポール大使が挨拶を行った。続いて、ニコラス・タンニ二等書記官がプレゼンテーションを行い、参加者による自己紹介や質疑応答、最後にネットワーキングが行われた。

【大使挨拶】

シンガポールは日本および日本企業との長年にわたる信頼関係を重視しており、本フォーラムが両国の絆を強め、変化の激しい地域において協力と成長の道を探る契機となることを期待している。経済的な結びつきに加え、デジタルや持続可能性といった新興分野における幅広い協力が両国関係を支えている。現在では5000社以上の日本企業がシンガポールに拠点を構え、2023年には日本にとって最大の投資先となった。また、シンガポール企業も日本市場で活動しており、シンガポール国立大学傘下の起業家支援の拠点BLOCK71も名古屋に次いで東京にも

第94回アセアン研究会

駐日シンガポール大使

設置されAI技術やスタートアップ支援を通じて連携を深めている。観光交流も活発で、24年には両国合わせて126万人が相互訪問した。大阪・関西万博では、シンガポール・パビリオン「ドリームスフィア」を通じて文化発信を進めている。

ASEANの一員として、また対話調整国として、シンガポールは日本とともに包括的戦略的パートナーシップの構築に取り組んでいる。貿易、デジタル、グリーン経済、安全保障、地域秩序の維持などで協力を強化し、26年の外交関係樹立60周年を新分野推進の好機と位置づけている。今後も日本および日本企業との協力関係を深化させていきたい。

【プレゼンテーション要旨】

シンガポールは、1965年の独立当初は1人当たりGDPが約1100米ドルの小さな港湾都市だったが、2024年には約9万1000米ドルに達し、グローバルハブへと成長を遂げた。この変革は、労働集約型から技能・資本集約型、さらに知識・イノベーション主導型経済への戦略的転換によるものであり、適応性や長期計画といった国の強みを反映している。

現在の経済は製造業を基盤とし、G



DPの約20%を占める。エレクトロニクスでは世界の半導体チップの10%、製造装置の20%を担い、バイオ医薬品や航空宇宙分野でも主要な拠点となっている。加えて、金融、サプライチェーン、AIなど多分野でも活発なハブとして機能している。2023年に始動した国家AI戦略2.0により、AIを公共の利益に活用する取り組みを強化している。通信インフラへの投資も進んでおり、東南アジアのデータセンター容量の半分以上を保有し、企業が高度なデジタル環境にアクセスできるよう整備が進められている。政治的安定、汚職の少なさ、競争力ある税制、迅速な企業設立制度などが評価されており、世界有数の安全かつ効率的なビジネス拠点である。人材力とエコシステムも強み

であり、イノベーションと資本の集積地としての地位を確立している。

また、教育・医療・生活水準でも高い評価を受けており、駐在先や生活地としても魅力的である。戦略的な地理的優位性もあり、マレーシアやインドネシアなどASEAN諸国へ数時間でアクセス可能である。現在27のFTAを締結し、2つが発効待ちで、これにより世界のGDPの85%以上に到達可能となっている。

東南アジアは30年までに世界第4位の経済圏となると予測されており、シンガポールはその入り口として「SGプラスモデル」を提唱している。マレーシアのジョホール州、インドネシアのBBK経済区との連携により、補完的地域戦略を展開している。

常任理事会 新顧問に2氏承認

FECは5月20日、常任理事会を開催し、渡部賢一会長、原良也常任理事、松澤理事長、事務局役職員ら8人が出席した＝写真。

開会宣言の後、定款に基づき渡部賢一会長が議長となり、議長の指名を受けた松澤理事長が各議案について説明を行った。第1号議案「会員の入会承認の件」では、前回の常任理事会（3月18日開催）以降に入会申し込みのあった法人1社、駐日大使3人がそれぞれ法人会員、

名誉会員として承認された。また第2号議案「令和7年度定時総会招集の件」では、本年6月19日に開催予定の令和7年度定時総会を招集することが承認された。更に第3号議案「事務局長選任の件」では事務局長には松沢聡FEC企画事業部長、第4号議案「顧問委嘱の件」では顧問には木寺昌人日本たばこ産業㈱取締役（元駐中華人民共和国、元駐フランス大使）と金川信一郎氏がそれぞれ承認された。続いて報告事項として、▷令和7年度



通常理事会招集及び付議事項の件▷支払実施報告の件▷要人等を迎えての研究会等開催の件▷次回常任理事会開催期日等の件―についてそれぞれ説明を行い、各報告内容が了承された。

TOPPANの印刷技術と最新VR作品見学

FECは5月21日、会員企業であるTOPPANホールディングス(株)との共催で在京大使館の外交団を招き“Explore Japan’s Cutting-Edge Printing and Cultural Heritage Technologies”と題しTOPPAN小石川本社ビルにある印刷博物館と併設のデジタル文化財ミュージアム KOISHIKAWA XROSSにて同社の印刷技術と最新のVRによる文化財のデジタルアーカイブの体験会が開催した。

冒頭、松澤建FEC理事長より挨拶があり、次いで今回の企画を快くお引き受け頂いた池田隆夫TOPPANホールディングス株式会社常務執行役員が参加者にむけて体験会の意義の説明があった。

当日は、ウィッチュ・ウェチャーチーフ駐日タイ王国大使をはじめ8カ国10人の外交団が参加し、印刷技術の歴史と同社の最新の技術を体験した。特に注目を集めたのは、白黒の図版しか現存していない伊藤若冲の幻の作品「釈迦十六羅漢図屏風」を、同社のデジタル技術と学術的知見に基づいて復元した展示や、VR作品『金峯山寺』である。

これらのVR作品を制作するにあたっては緻密な計測と高度なデジタル技術が必要で、2016年の熊本地震で被害を受けた熊本城の石垣の復旧には、同社のアーカイブデータが大いに役立っている。

この技術は世界各国の文化財のデジタ

ル保存に大いに役立つもので、最後に行われた文化財のデジタルアーカイブについてのプレゼンテーションでは活発な質疑応答が行われた。



池田隆夫TOPPANホールディングス(株)常務執行役員



印刷博物館見学



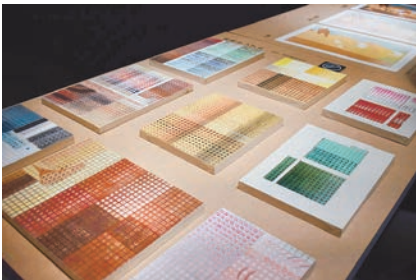
伊藤若冲「釈迦十六羅漢図屏風」デジタル推定復元

制作 TOPPAN株式会社
監修 山下裕二(明治学院大学教授) 荒井経(東京藝術大学教授)



VR作品『金峯山寺』

製作協力 金峯山修験本宗 総本山 金峯山寺
製作著作 TOPPAN株式会社



再現のためのカラーチャート



文化財のデジタルアーカイブについてのプレゼンテーション

駐日スーダン共和国大使

日本から学べること多い



▷5月16日＝エルライヤフ・ハイドゥーブ駐日スーダン共和国大使

湯下博之FEC理事は、エルライヤフ・ハイドゥーブ駐日スーダン大使を訪問した。大使は、ハルツーム大学を卒業して外務省に入省し、在中国大使館三等書記官、外務省報道情報部、外務大臣室次長の後、1998年から2018年まで韓国大使館次席を勤めた後、駐韓国大使、次いで外務省経済技術局長、アラブ・アジア局長、アフリカ局長を歴任し、25年4月に着任した。

【大使のコメント】

私は23年以上韓国に在勤し、その間2004年に家族と日本を観光で訪れたことがある。日本人は正直で親切で外国人にやさしい。意思疎通がしやすく、他の国々とは違った文化を持っている。家族も日本在勤を喜んでいる。

スーダンは1956年に独立し、日本は同年これを承認した。57年に大使館を設置、2023年のスーダン国内武力衝突に伴い、現在はエジプト・カイロの臨時事務所に移転し、業務を行っている。スーダン側は1961年に大使館を設置、70年に一旦閉鎖したが73年に再開した。2023年および24年、日本はスーダンおよび周辺国の人道支援を中心に約1億6000万ドルの支援を実施している。

23年4月首都ハルツームで国軍と準軍事組織である即応支援部隊(RSF)との間に武力衝突が勃発、首都機能は北方のポートスーダンに移ったが、最近になって首都機能がハルツームに戻りつつある。国連によると衝突後の避難民は1200万人を超えたが、彼らのほとんどは、国

軍が再掌握した後にはそれぞれの故郷に戻り始めた。

日本はこれまでスーダンに対して医療、水供給、環境、農業等多分野で援助をしており、スーダンの再建にとって日本から学べることが多い。実は、スーダンの大統領はアフリカ連合(AU)にスーダン再建のための政治アクション計画を提出しており、昨日私はスーダン再建のための最初の話し合いをJICAと行った。日本との関係は明るいと思っている。今年6月には文民政府が実現すると考えている。

さらに8月には、日本で外交官トレーニングのための数日間の研修が行われ、スーダンから20人くらいが参加する予定である。他に日本は年に4、5人奨学生を受け入れており、JICA研修等を含めると年間で20人くらいが訪日している。熊本大学とハルツーム大学、鳥取大学とスーダン農業研究機構との間にも交流がある。日本の医療機器は非常に優れており、病院や技術面で、スーダンは周辺諸国の医療ハブになっている。周辺諸国の学生がスーダンで学んでいる。

大阪・関西万博は9月2日がスーダンのナショナルデーで閣僚2人が訪日して貿易・投資フォーラムを開催するほか、文化行事も行う。スーダンは農業国であり、1925年以降の200^年に及ぶ灌漑施設もある。



Courtesy Call

駐日ポルトガル大使

若い世代意識した連携深化



▷6月3日＝ジルベルト・ジェロニム駐日ポルトガル大使

湯下理事は、ジルベルト・ジェロニム駐日ポルトガル大使を訪問した。大使は、リスボン工科大学国際関係学部を卒業して外務省入省。在仏大使館、NATOポルトガル代表部等に勤務後、首相外交顧問、首相官房長、外務省総務局長、欧州連合代表部政治安全保障委員会常駐代表、外務省副大臣補、欧州評議会常駐代表(ストラスブール)を歴任して、2025年3月に着任した。

【大使のコメント】

私はこれまで観光客として3度日本を訪れ、直近では2023年に東京、京都、大阪を巡った。私の日本への関心は以前からで、1543年にポルトガル人が最初のヨーロッパ人として日本に到達して以来続く、両国の長い歴史や南蛮美術に表れた文化交流に魅力を感じてきた。また、日本の文化や料理に対する私の深い興味も、日本への関心を育んできた大きな要素である。

駐日大使として着任する前、欧州評議会常駐代表を務めていた際には、2人の日本大使と親交を深め、日本やその文化について多くを学んだ。日本語にはポルトガル語由来の言葉もあり、ポルトガル人にとって日本はとても居心地の良い国だと感じる。

両国は共に海洋国家であり、古い伝統と文化を持つ。また、法の支配や人権尊重、多国間主義といった価値観を共有する成熟した民主国家同士でもある。現在

の国際情勢を考えると、こうした共通基盤を活かし、特に若い世代を意識した政治、経済、文化分野での連携を深めることが重要だ。

在日ポルトガル大使館は2年前に新しく広い建物に移転し、各種イベントや会合の開催がより円滑になった。こうした活動は、日本におけるポルトガルの存在感を高めることにもつながっている。たとえば、今年5月には東京・下北沢で初のポルトガル・フェスタを開催し、音楽、特産品、料理、ワインなどを通じて多くの来場者にポルトガルの魅力を伝え、成功を収めた。今後これを毎年継続し、ゆくゆくは日本各地へと展開したい。

大阪・関西万博は、ポルトガルの魅力を紹介する絶好の機会である。建築家・隈研吾氏が設計したポルトガル・パビリオンでは、「海」をテーマに、両国が共有する海洋保護について展示を行っている。会場内にはポルトガルの土産物店、レストラン、文化プログラムもあり、来場者100万人目には、サッカー選手クリスティアーノ・ロナウドのサイン入りユニフォームが贈られる特典もある。

ポルトガルと日本は、見かけ以上に近い関係にある。共に世界的に安全な国であり、ポルトガルは訪れる価値のある多くの魅力を備えている。



大阪・関西万博 インドネシアパビリオン

文化発信、国際的なコミットメント強調



5月27日の大阪・関西万博でのインドネシア・ナショナルデーでは、同国が国際舞台での存在感を改めて示すのに成功しました。インドネシアのアイデンティティを発信し、国際的な友好関係を深め、グローバルな課題への積極的な関与を示す重要なプラットフォームとなりました。

「共に栄える未来―自然・文化・未来の調和（Thriving in Harmony: Nature, Culture, and Future）」をテーマに、インドネシアは包摂的で持続可能かつ協調的な未来ビジョンを提示し、持続可能な開発および国際協力に対する強いコミットメントを表明しました。

式典は、インドネシアパビリオンからナショナルデーホールまでの大屋根リングを彩る華やかな文化パレードで幕を開けました。伝統楽器の演奏と踊り手の鈴の音が調和してインドネシアの多彩な文化を美しい交響曲として表現し、インドネシア各地の伝統舞踊なども披露され、観客を魅了しました。

続いて行われた式典では、インドネシア代表团団長であるプラティクノ人間開発・文化担当調整大臣やセルフィ・ギブラン・ラカブミン国家工芸品協議会議長ら両国の要人が多数出席し、ブンチャック・シラットの実演に始まり、さまざまな音楽パフォーマンスや人形劇などインドネシアの芸術文化が披露されました。プラティクノ大臣は「本日、私たちは

インドネシアのナショナルデーを祝うだけでなく、調和、希望、そして未来への共通のビジョンを共有しています。今回の参加は、インドネシアが1970年に初めて大阪万博に参加して以来の歩みを振り返りつつ、国のアイデンティティと優先課題を世界に発信してきた歴史の延長線上にあります」と述べました。インドネシアと日本が築いてきた強固なパートナーシップ、すなわち、経済、インフラ、教育、科学技術、環境など復興とレジリエンスに関わる幅広い分野を強調し、両国が持続可能なイノベーションを通じて未来の課題に共に取り組むよう呼びかけました。

このように、インドネシアの2025年の大阪・関西万博への積極的な参加は文化・経済外交の一環としての戦略的な取り組みであり、国際協力の推進、投資誘致、そして世界的な開発課題への主体的対応を目的とした重要なステップになっています。

インドネシアパビリオンは、イノベーションと持続可能性に対する国家の強い意志を象徴しています。建材には穀殻の再生利用と廃プラスチックを組み合わせたプラナ木材などの環境配慮素材が使われており、省エネ照明や先進的な冷却システムも導入されています。建築デザインは海洋国家インドネシアの誇りと、国際社会における責任を表現するものとなっています。ここには、豊かな文化、類



インドネシアパビリオン



大屋根リングを彩る華やかな文化パレード

まれなる自然、そして未来に向けた大きな志が息づいています。

ナショナルデーの成功と大阪・関西万博への参加を通じて、インドネシアは日・インドネシア間の二国間関係を一層強



伝統舞踊は多くの観客を魅了した



伝統武術のブンチャック・シラット



インドネシアを代表する歌手のトゥルス氏とペーパーマン人形劇団

化するとともに、包括的かつ持続可能な未来の構築に向けたグローバルパートナーとしての地位を確固たるものとしています。

大阪・関西万博 エジプトパビリオン

歴史遺産と最新の取り組み 世界へ発信



エジプト・アラブ共和国は「Legacy Empowering the Future（過去の遺産が未来を照らす）」をテーマにしたパビリオン「エジプト館」を出展しています。国が誇る豊かな歴史遺産と現代の先端技術を紹介し、悠久の古代文明と未来への展望を融合させた姿を世界に発信。来場者は「古代エジプト文明」と「現代エジプトと大規模国家プロジェクト」を巡り、エジプトの歴史遺産、文化的な影響力、イノベーションと開発における最新の取り組みについて深く学ぶことができます。

■テーマの背景

長い人類の歴史の中で常に繁栄と革新の地であったエジプトは、人類史上最も偉大な文明が築かれた土地です。現在エジプトでは、豊かな未来に続く新たな機会を創出するための野心的な大規模プロジェクトを通じて進化と発展を推進し、この伝統を引き継いでいます。

■エジプト館の展示内容

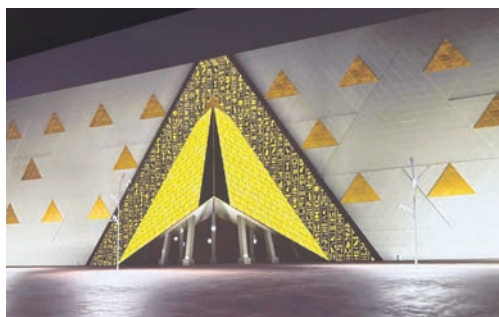
＜古代エジプト文明＞では、エジプトの偉大な古代文明（過去）、現代の進化（現在）、そして今後の展望（未来）を探りながら、来場者に時空を超えた旅を体験していただきます。

＜現代のエジプトと大規模国家プロジェクトの体験ブース＞

現在、エジプトは経済的発展と近代化を促す野心的なメガプロジェクトを背景に、変革の時代を迎えています。エジ



万博エジプト館の外観



大エジプト博物館（GEM）の外観



古代エジプトの壁や墓の彫刻が再現されたパビリオンの壁



古代エジプトの石の彫刻



近代化されたエジプト



メガプロジェクト・ホールに模した古代の城壁

プトの未来を作るさまざまな取り組みを紹介し、目覚ましい発展によってエジプトが投資、観光、インフラ開発の主要なハブとして位置付けられ、イノベーションと経済発展の世界的な拠点としての役割を強化していることが分かります。

■大エジプト博物館（GEM）グランドオープン

7月下旬、エジプトの壮大な文化遺産を保存・展示する世界最大級の考古学博物館である大エジプト博物館（GEM）の公式グランドオープンセレモニーは、大阪・関西万博で同時開催され、偉大な古代エジプト文明を称えた壮大で豊かな

歴史的遺産の没入体験を提供します。セレモニーの様子はスクリーンでライブ配信され、来場者はこの歴史的なイベントをリアルタイムで体験することができます。

■エジプトのナショナルデー

7月23日、ナショナルデーの祝賀会を開催します。エジプトの高官や海外からの来賓が列席されるだけでなく、エジプトの芸術的・民俗的な伝統を紹介する壮大な文化ショーやイベントを開催し、エジプトの変革と進化の精神を象徴します。

■現代のエジプトと大規模国家プロジ

エクトに関するイベントの開催

エジプト館は古代エジプト文明の偉大な遺産を称えるだけでなく、主要なビジネス関係者との交流の場として機能し、現代エジプトの経済状況と大規模な国家プロジェクトを紹介します。産業の発展、持続可能性、イノベーションに重点を置き、世界的な投資ハブとしてのエジプトの役割を明らかにするセミナーやディスカッションを行います。

2025年大阪・関西万博にぜひご来場ください。悠久のエジプトの歴史遺産と明るい未来を世界へ発信します！

大阪・関西万博 サウジアラビアパビリオン

4つの没入型展示で歴史、文化、遺産を体験

サウジアラビア王国館は、万博でサウジアラビアの魅力を紹介し、「サウジと会おう」のスローガンのもと、世界中にサウジアラビアを知る絶好の機会を提供しています。2025年大阪・関西万博のサウジアラビア王国館は、サウジアラビアの町や都市の探検を彷彿とさせる空間体験を生み出し、訪問者をサウジアラビアの未知の素晴らしさに没頭させ、つなぐ場を提供しています。サウジアラビア王国の都市構造から着想を得たパビリオンでは、伝統に根ざし、現代に再構築されたサウジアラビアの歴史、文化、遺産を紹介しています。

建築事務所Foster+Partnersが設計したサウジアラビア王国館は、サウジアラビアの深い歴史から活気あふれる現在、そして「ビジョン2030」で描かれた野心的な将来構想まで、サウジアラビアの物語を反映しています。このパビリオンの来館者は、サウジアラビアの豊かな伝統と大胆な変革を体験し、世界に向けて開かれた悠久の文化であり、人類の未来の新たな可能性を牽引する国としてサウジアラビアを理解することができます。

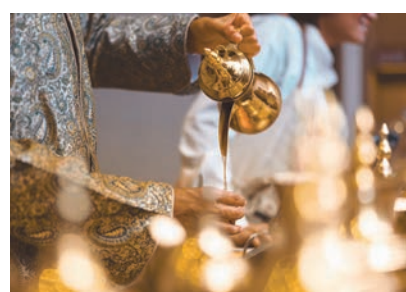
4月13日の開館以来、80万人以上の来館者を迎えた2025年大阪・関西万博のサウジアラビア王国館は、その革新性とデザイン性が評価され、2025年NY建築デザインワード文化建築部門インタラクティブ・体験型空間のカテゴリーで金賞を受賞しました。

パビリオンでは、毎日のパフォーマンス

ス、ライブショーなどを含めた700以上のイベントでサウジアラビアの過去、現在、未来を旅することができます。サウジアラビアのアイデンティティと多様性が紹介され、工芸、音楽、ダンス、詩、伝統衣装などを通じてその遺産が紹介されます。訪問者は、本格的な体験を通じて、サウジアラビアの活気あふれる遺産を体験することができます。サウジアラビア王国館では、4つの没入型展示「進化する都市」「持続可能な海」「無限の人間の可能性」「イノベーションの頂点」で、さまざまな没入型コンテンツを体験しながら、サウジアラビアの功績について詳しく知ることができます。

没入型の体験、ストーリーテリング、パフォーマンスを融合させたパビリオンは、文化の共通点を結びつけ、日本および世界中の来場者にサウジアラビアの歴史を紹介し、サウジアラビアが想像以上に日本に身近な国であることを伝えます。2025年大阪・関西万博へのサウジアラビアの参加は、日本との強固な関係を証明するものであり、両国の外交関係樹立70周年を祝うものとなります。

2025年大阪・関西万博のサウジアラビア王国館は、国として国際的なイベントを主催するだけでなく、グローバルな対話に積極的に貢献する準備が整っていることを示しています。サウジアラビアは、2030年リヤド万博に向けて、その使命の一翼を担うことを大変嬉しく思っています。



カルダモンとクローブ入りのサウジコーヒーは大人気のカフェメニュー



プロジェクションマッピングで昼と違う顔を見せる夜のパビリオン

次回の2030年万博開催国のサウジ王国館は、日本館に次ぐ2番目の大きさ。一步踏み入るとそこはまるでサウジアラビアの古い街に迷い込んだよう。期間中700以上のイベントを毎日開催

大阪・関西万博 フィリピンパビリオン

「自然・文化・共同体」3つの特徴からアプローチ



フィリピンパビリオンは「自然・文化・共同体—よりよい未来を共に織りなす」をテーマに、遺産と人間性を進歩の中心に据えることで、万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」という呼びかけに込められている。このアプローチの中心にあるのが、パビリオンの3つの特徴である。

1. フィリピン織物職人たちの最大のコラボレーション

フィリピン全国の熟練職人による200枚以上の手織物のパネル。ティナラックからピニャまで、先住民のテキスタイルの数々。それぞれの作品は、文化、アイデンティティ、世代を超えた知識を物語る。

2. フィリピンにとって万博初のライブ・パフォーマンス・ファサード

織物パネルがダイナミックな外観の一部を構成し、一日中開いてライブパフォーマンスを見せる。建築が生きた舞台となり、デザインとダンスがシームレスに融合する。

3. 多感覚体験

フィリピンパビリオンでは、テクノロジー、伝統、ストーリーテリングがシームレスに融合した没入型体験を提供。日本に敬意を表したアニメ風のファサードフィルムから始まり、来場者がフィリピン精神の進化する物語に引き込まれ、織り込まれるような舞台が用意されている。内部では、フィリピン各地域を代表

する18の手織りアート作品に出会うことができる。持続可能や再利用可能な素材を使い、6カ月かけて制作されたこれらの作品は、シンクロした光の投影、サウンド、ビデオを通して、来場者をフィリピンの島々のさまざまな場所に連れて行き、それぞれのコミュニティの心を垣間見せてくれる。パビリオンの中心にある「ダンシング・ウィズ・ネイチャー」は、来場者がスクリーンの中でフィリピンの豊かな生態系の一部としてデジタル的に再現される体験型インスタレーション。彼らの動きは、踊る花、ひらひらと舞う葉、あるいは魚の群れとなって、人間と自然界のつながりを力強く隠喩する。生命、伝統、環境をたたえる共同体であり、革新と魂の両方によって生命を吹き込まれる。体験をより深いものにするために、フィリピン文化センターからのパフォーマーによる生演奏が1日5回行われ、伝統的な音楽、ダンス、物語が披露される。これらのパフォーマンスは、パビリオンに温かさ、リズム、祝福を吹き込み、訪れるたびにユニークで紛れもないフィリピンを体験できる。

世界への文化的招待

また、フィリピンの織物製品を購入できる「ハビ・ギフトショップ」、伝統的なヒーリング・マッサージやお茶を提供する「ヒロット・ウェルネス」、鶏肉のアドボ(ココナッツミルク煮)、ルンビアン・ピノンド、ウバ・アイスクリー



パビリオン外観



オープニング・セレモニー

ム、アイコニックなハロ・ハロなどの人気メニューを提供する「ハイン」(テイクアウト)など、こだわりのスペースを楽しむことができる。

また、フィリピンの豊かな生物多様性と物語への愛を象徴するターシャをモチーフにしたパビリオンのマスコット「ココロちゃん」も初登場する。ターシャ基金とのコラボレーションで生まれたココロちゃんは、フィリピンが世界にもたらす温かさや好奇心を体現している。

万博を超える遺産

「フィリピン・パビリオンは、フィリピン人の心と魂に触れ、フィリピンを愛する多くの理由を発見してもらうための、世界への招待状である」とクリスティーナ・ガルシア・フラスコ観光大臣は

ナショナルデーのパフォーマンス



手織物で作られたパビリオンのパネル

語った。「フィリピンの7641の島々を探検し、文化の奥深さを体験し、フィリピン人の創造性の素晴らしさに感動し、フィリピン人コミュニティの勝利と回復の物語に感銘を受けるよう、来場者を魅了したい。伝統的な織り方と革新的な技術を融合させ、地域の多様性と民族のアイデンティティを強調することで、観光客に有意義な体験を提供すると同時に、地域社会が持続的な生計と雇用によって恩恵を受けるという、持続可能な観光開発というメッセージを前面に打ち出している」



ハビ・ギフトショップ

第15次FECベトナム訪問団、報告会で総括

FECは5月20日、LEVEL XXI東京会館にて3月9日から15日まで派遣した第15次FECベトナム訪問団の報告会を開催した。訪問団団長の尾ノ井芳樹FEC日越文化経済委員会委員長（電源開発(株)エグゼクティブ・シニアフェロー）＝写真左、訪問団顧問の渡部賢一FEC会長はじめ団員11人、外務省より久賀百合子アジア大洋州局南部アジア部南東アジア第一課長＝同中、FEC会員等が出席した。

まず、尾ノ井団長から「コロナ禍以降初のミッションであり、ハノイ、ダナン、ホーチミンの3都市を訪れ、各地の発展状況を実感しながら参加団員の関心



に沿ったさまざまな政策を伺うことができた。ベトナム政府の省庁再編のご多忙の中ご尽力いただいた皆様に心から御礼申し上げる」と報告書に基づき今次訪問団の報告が行われた。

来賓の久賀課長は「団長報告を伺い、次世代を担う各分野において非常に充実したミッションであったと感じた。ベト



ナムの活力と成長を日本の発展に活かしていきたい」と先般の石破首相の訪越にも触れ、挨拶された。結びに、松澤建FEC理事長が「外務省や在ベトナム日本大使館をはじめとする関係者の皆様の多大なるご協力に感謝申し上げます。また、

団長を務めてくださった尾ノ井様に心から謝意を表す。FECでは今後も各国へ訪問団を派遣予定である」と述べ、報告会は閉会した。その後別室にて解団式が行われた。

ベトナムフェス2025 代々木公園で開催



5月31日と6月1日に、東京・代々木公園イベント

広場で「ベトナムフェスティバル2025」が開催され、FECから松澤建理事長と湯下博之理事らが出席した＝写真。開会式では実行委員長であるファム・クアン・ヒエウ駐日ベトナム大使による挨拶の後、訪日中のグエン・チー・ズン副首相や、林芳正内閣官房長官らが挨拶を述べた。

FECは毎年同フェスティバルに協賛しており、元駐ベトナム大使の湯下理事が登壇しテ



ム大使の湯下理事が登壇しテップカットを執り行った。会場では、ステージでの歌とダンスのパフォーマンスをはじめ、タン

ロン水上人形劇、ベトナム料理のブースなどが立ち並び2日間で約14万人が来場した。

ベトナム友好勲章を受章 黒岩知事の祝賀会に参加

5月26日、ロイヤルホールヨコハマにて「神奈川県知事・黒岩祐治氏ベトナム友好勲章受章祝賀会」が開催された。

黒岩知事は昨年12月、ベトナム社会主義共和国より友好勲章を授与された。祝賀会では、松澤理事長が黒岩知事の長年にわたる日越友好への貢献を祝った。また、松澤理事長も同年8月に、同じくベトナム政府による友好勲章を受章している。



ベトナムの民族衣装アオザイを着用し、胸に友好勲章を掲げた黒岩知事と握手を交わす松澤理事長

FEC 活動日誌

7月の催しのご案内

◆3日（木）14時～16時

第153回欧州研究会

内 容：ルーマニア・フォーラム

場 所：ルーマニア大使館

◆4日（金）14時～16時

FEC東京国際フォーラム

講 師：黒田東彦前日本銀行総裁

テーマ：日本経済の展望と金融政策の正常化

場 所：国際文化会館

◆10日（木）14時～16時

第292回国際研究会

講 師：丸山則夫TICAD担当大使

テーマ：TICADを通して見た日アフリカ関係の変遷

場 所：如水会館

◆14日（月）15時～16時30分

第293回国際研究会

講 師：秋田浩之日本経済新聞社コメンテーター

テーマ：トランプ外交と日本の選択

場 所：オンライン

詳細、最新情報は本協会ホームページ（<https://www.fec-ais.com>）をご覧ください。事務局（電話03-3433-1122）にお問い合わせ下さい。いずれも定員に達し次第締め切りとさせていただきますので予めご了承下さい。

訂正

FEC News 6月号「有識者招き座談会」の記事中、参加者の飯沼修一氏とあるのは飯沼秀一氏の誤りでした。訂正してお詫びします。



100年の歴史を 紡ぐカクテル

1924年に誕生した帝国ホテル初のオリジナルカクテル「マウント フジ」をご堪能ください。



帝国ホテル

医療の進歩に貢献するサクラグループ

〈皆様のウィルスから守る!〉 〈がんの迅速診断に!〉

サクラ精機株式会社 <http://www.sakurajp.com/>

サクラファインテックジャパン株式会社 <http://www.sakura-finetek.com/>

サクラグローバルホールディング株式会社 <http://www.sakuraghc.com/> TEL.03-3270-1666

**地球はつづく、
化学でつなぐ!**

東亜合成